

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2291400014 | | |
| 法人名 | 営利法人 矢崎総業株式会社 | | |
| 事業所名 | ヤザキケアセンター 紙ふうせん | | |
| 所在地 | 静岡県裾野市御宿1500 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年1月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年4月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2291400014-00&PrefCd=22&VersionCd= |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部 |
| 所在地 | 静岡県静岡市清水区迎山町4-1 |
| 訪問調査日 | 平成26年2月7日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>敷地、建物共に広々としており、その中で季節を感じて過ごすことが出来る。高齢化、重度化により、頻繁に戸外に出るのが難しくなった利用者様も多いが、晴れた日には食堂から雄大な富士山、桜並木が望め、室内からも楽しめる。利用者様の過ごすスペースは共用部分、個室共に床暖房が設置されており、一年通じて快適に過ごして頂くことが出来る。 スタッフは、利用者様の持てる力を生かして頂けるようなケアを行う努力をしている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>このホームは、秀麗富士の広大な裾野に抱かれ、風光明媚な恵まれた環境にある。法人は世界規模の1兆円企業でありながら、「地域から必要とされる事業者であり続ける」を理念として掲げ、地域と共に介護事業を行っている。デイサービスと居宅介護支援も併設しており、全国展開のノウハウの発信基地にもなっている。QCサークル活動による改善活動も取り入れられ、組織だった取組や管理者と職員の信頼関係・相対的に高い資格取得・適切なケアプランの作成サイクル・活発な改善提案・恵まれた環境の有効活用等で、手厚い介護支援が行われている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「利用者様それぞれの豊かな人生生活実現に貢献する」という理念を念頭に置き業務にあたっている。グループホーム独自のケア理念をスタッフと考えている。 | 地域密着に相応しい法人の大きな理念から、更にそれを咀嚼して、今のこのホームに相応しい独自の理念をみんなで検討中である。 | 早期にまとめ上げて実践に結び付けることと、今後も一定期間ごとに再検討して適時・適切な理念を構築し続けることを期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 矢崎自治区に加入し、清掃活動・お互いの祭りなどに相互に参加している。矢崎保育園とも年間の行事に相互に参加し近隣園児がいつでも気軽に立ち寄れる様遊具を設置している。 | 自治会に加入し、地域行事・ホーム行事に相互に参加し合い、日常的な交流が見られる。社宅等の法人自治区だけの活動のみならず、広く対象を近隣・地域に向けて活動している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の中学校の職業体験の場として受け入れてをしている。2級ヘルパーの実習の場として協力した。25年度の認知症実践者リーダー研修の実習生2名受け入れをした。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 定期(2か月に1度)開催し、利用者様ご家族、区長、民生委員、包括支援センターの代表等と話し合い、サービス向上に生かしている。 | 2ヶ月に1回着実に開催されており、ホームの利用や活動の状況が報告され、利用者の家族や近隣の区長・民生委員、行政からも然るべき担当者が参加して話し合い、サービス向上に取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 包括支援センター主催の地域調整会議に随時参加している。市主催のふれあい健康祭りに毎年出店している。認定調査の更新の際、御家族の代行として、介護保険室に申請に伺っている。 | 日常の報告・連絡・相談を行うと共に、市主催のふれあい健康祭りの等の行事や、地域包括支援センター主催の地域調整会議に参加し、連携関係を築いている。また、福祉の県のHP作成にも協力している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束ゼロ宣言をし、ポスターを玄関ホールに掲示してある。何が身体拘束になるのかについて12月の定例カンファレンスにおいて内部研修を行った。 | 0宣言を行い、マニュアルを整備し、禁止事項の具体例をカンファレンスで研修を行い、実践している。ともすれば出やすい「チョットマッテ」「アブナイカラヤメテ」等の拘束言葉も自戒していた。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | H26、1月の定例カンファレンスにおいて、虐待防止関連法、身体拘束との関連について、内部研修を行った。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修にて制度について学んでいる。現在の入居者様に該当の方はいない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に際しては、申し込みから契約に至るまでの間必要であれば複数回ご家族と面談を行い、十分に説明し、ご理解・ご納得頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者ご家族が気軽に声をかけられるように顔写真を使いスタッフの紹介をしている。意見箱の設置、運営推進会議への御家族の参加等により意見・要望を出していただいている。 | 日常の観察や家族来訪時・各種行事の折に意見を把握し、支援や運営に活かしている。スタッフの写真で名前や立場・仕事内容を紹介し、相談しやすさにも配慮している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月の定例カンファレンスにおいて出た意見や随時出ている要望などを部門管理者は部門長会議に提出している。 | 職員は、カンファレンスやQCサークル活動等を通じて改善提案が活発に行われ、それらを活かした運営が行われている。 | 願わくば、2年に1回の外部評価の機会に、自己評価票作成を職員全員が参画することも検討してみたい。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 昇給時に評価を行い給与の見直しを行っている。資格取得についても給与に反映し、向上心が持てるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修には積極的に参加できる様案内を行い、業務として参加している。H25年度認知症実践者リーダー研修に1名参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 認知症実践者リーダー研修の実習生の受け入れにより、近隣市町村の同業者と情報交換を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 言葉からの訴えばかりではなく、言語化されない訴えをくみ取れる様に寄り添い、信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 必要に応じて何度か面談する機会をつくり、安心して相談いただける様努めている。また電話で日常の様子などを連絡している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 緊急性があるかどうか等検討し、すぐこちらでのサービスが提供できない場合は他のサービス利用を検討頂く様、お話ししている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様の持っている力を把握して、出来る事はやっていただき、職員と水平の関係を築ける様努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居時の説明にて、ご家族の協力が必要である事をご理解いただき、受診や外出の協力を仰いでいる。また面会にも来ていただきたいという事をお伝えしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | いつでも面会を受け入れており、キーパーソンの方だけでなく、ご兄弟、ご親戚、お友達、ご近所の方など気軽に寄っていただいている。またご家族に協力いただき、法事や祝い事などに出席されたりもしている。 | 馴染みの人や場所について、幅広く交流の機会を探り、併設デイサービスとの交流や家族の協力による慶祝時への参加等、関係が途切れない支援の努力を続けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者様同士がスムーズに関われる様に、職員は間に入って意志を伝達する等サポートしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 項目に該当する事例がみとめられていない。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人に直接伺える場合は希望を伺っている。困難な場合は、日頃の様子から非言語の訴えを導き出し職員全員で考え検討している。 | ADLの低下から会話が成り立たない、意向を直接に伺えない場合も多くなっているが、支援の中で利用者が嫌がること、生き生きすることを職員連携のもと確認し、利用者が望む暮らしの実践に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前の暮らしについて、ご家族に記入して頂くシートを作り活用している。ご本人に伺える場合は伺っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご利用者様の担当職員を決めると共に、毎日の過ごし方、心身状態を記録し、カンファレンスを通して職員全体の意見を出し、総合的に把握できるようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご利用者様の希望・思い、ご家族の考え、担当職員の意見などを踏まえて、計画作成担当者が作成している。 | 月ごとに現況把握表を担当職員がまとめ、カンファレンスにおいてケアプランの短期目標を評価して次の介護計画作成へ活かしている。 | 介護計画の作成経過を家族にも理解してもらえるよう、より丁寧な話し合いが望まれる。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子は、介護記録・申し送りノートに記載しており、職員は常に目を通し情報を共有している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 既存のサービスでは、十分な支援が行えないと判断し、個別ニーズに対応するサービスを、家族に了承いただき行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 一般ボランティアに加え、社内ボランティア(習字・体操など)の協力を得て、ご利用者様の生活の充実のお手伝いをしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居前からの主治医と連携をとっている。定期的な往診、受診をご本人とご家族がご納得の上行っている。 | 利用者・家族が希望する主治医に受診している。職員に看護師を配置し、状況変化に迅速に対応しており、受診の際には期間の状況を書面にて情報提供し適切な受診が出来るよう支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | グループホームの職員として看護師が1名おり、健康管理・主治医との連携・急変事の対応をおこなっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | H25年度は入院されたご利用者様はいなかったが、以前ご利用者様入院された際には、病院の相談員や医療連携室と連絡をとり合い情報交換をおこなった。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 往診に来て頂いている主治医には定期的にご相談している。ここで出来る事、出来ない事をご家族にも何度も説明させていただきご理解頂いている。各々に主治医の対応についても把握に努め、重度化した場合、ご利用者様本人が一番快適に過ごせる環境を作れる様努めている。 | 医療を常時必要となった場合には対応できないことは入所時から説明している。重度化した際には本人・家族の意思を尊重し、医師や家族・職員が気持ちを一致させ取り組んでいる。 | 家族の意向は利用者の状況によって変化してゆくことが予測されるが、看取りのマニュアル等文書化して用意されることをお願いしたい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救急救命(AED)の操作については講習を全職員が受けられるよう定期的に講習を行っている。夜勤帯には、AEDを近くに置き業務にあたっている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 日中については、防災訓練にて対応を確認している。夜間についても定期的に対応を確認している。矢崎自治区・警備会社とも協力体制を築いている。 | 床暖房とソーラー発電、噴火に対応する防塵マスクやゴーグルの用意、ガードマンの配置や敷地内防災隊の組織、ガスや水の大量の備蓄等々大企業ならではの体制が整えられている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者様は人生の先輩である事を念頭に置き支援を行うよう努めている。言葉使いについても、拘束につながる声掛けにならない様努めている。 | 職員自身が受けたいケア「プライバシーを保って生き生き暮らしたい」が実践できる様職員間で注意し合っている。また、実習生の新鮮な感覚から学ぶことも多く積極的に来てもらっている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 言葉で表した思いはもちろんの事、非言語的な想いをくみとれる様、寄り添いながら日々支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 起床、食事、掃除、就寝など大まかな日課以外はひとり一人の意向とペースを尊重し、自由に過ごして頂いている。起床時間なども、体調やご気分などによってかわる事が多くある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服装についてはお好みのものをご家族に用意して頂き出来る限り自由に選んで頂いている。介助が必要な方には最小限のお手伝いをしていく。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | ひとり一人の好みについては、ご本人やご家族から聞き取りを行い対応している。事業所の畑で採れた野菜(トマト、ピーマン、大根など)をご下ごしらえ、調理することで食べる楽しさが増えている。お皿拭きを役目として取り組んでおられる。 | 給食サービスを利用しているが、給食会議に職員も入って改善され、野菜たっぷりのおいしい食事が提供されている。菜園の作物を調理するときは利用者も下ごしらえに参加している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量のチェックを行い、足りない方に対しては、その方にあつた摂取法にて不足の無い様支援している。食事時間以外にお茶の時間を設けてある。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自歯の方、義歯の方それぞれ毎食後口腔ケアを行っている。2名の方に対しては歯科衛生士の訪問診療(1回/週)を受けており、必要に応じて歯科医師に訪問診療もお願している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表により、ひとり一人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄にむけて誘導、声掛けをしている。 | 排せつパターンの把握と適切な時間誘導や声掛けでほとんどの利用者がトイレでの排せつを可能にしている。訪問時にはポータブルトイレの使用も見られなかった。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事・水分・運動でコントロール不可の場合、主治医上申にて内服処方していただく。便秘薬が不向きの方には座薬で対応する場合もある。排泄チェック表により個々の排泄期間を把握するよう心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 月～土はいつでも入浴して頂けるよう、用意しており、ひとり一人の希望に添えるよう努めている。ほぼ毎日全員の方が入浴している。 | 利用者が清潔を保って気持ちよく過ごしてもらえるよう、職員は毎日の入浴を支援している。車いすの利用者も浴槽につかってもらえるよう二人で介助している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 起床から就寝までの1日の生活リズムを画的にせず、ひとり一人の生活パターンに応じて、休息・睡眠をとっていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬の説明書をファイルにまとめいつでも見れるようにしている。血圧の薬については、血圧の数値を必ずチェックするようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴からこれまでの趣味・嗜好を把握する努力をしている。施設内にある畑やカラオケ室などを利用して楽しみごとや気分転換の支援を行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 当日の希望に沿って戸外に出ることはなかなか難しいが、2～3名ずつの少人数で外食外出を行い普段とは違った食事を楽しんでいる。 | 毎日一時間の散歩、あるいは周辺の散歩等利用者の希望に沿って支援している。飼うさぎの世話やゴミ捨て・買い物同行等、外に出る機会を作っている。畑やウッドデッキで過ごす時に建物内他事業所の見守り応援を得ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 全員の方が行うことは難しいが、外出の際ご本人の預り金にてお好きな物を選んで頂き購入するお手伝いをしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望により、職員が仲立ちして電話連絡をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご利用者様を混乱させる事が無い様に配慮している。また皆さんの作品(習字など)や、日々の写真などを掲示することで居心地良く過ごせるよう工夫している。 | 空調や採光等は申し分なく整えられている。各居室入口は暖簾の柄を目印として利用者の混乱を防いでいる。廊下にはベンチやソファを置き利用者の思い思いに過ごせる場所作りをしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | あちこちにソファや長椅子を置き、好きな場所で休んでいただける様に配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人の馴染みの家具を持って来て頂いたり、家族の写真を置く等、ご家族の協力をお願いしている。 | 家族と相談して、季節の衣類や布団をこまめに入れ替えている様子がうかがえた。ベッドの脇に電気スタンドが整然と置かれたり、愛用の机が持ち込まれたり、それぞれに個性的な部屋作りがされている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に歩行していただき筋力の維持がはかれるよう工夫している。また居室の目印となる暖簾・トイレの張り紙などにより間違える事の無い様工夫している。 | | |